

東京ドーム「夢の懸け橋」から
始まった没落…そして
『週刊プロレス』追放から約20年!



ばびぶべぼ川柳創始師範

ターザン山本

誰かに対して恥じる。世間に対して
恥じるといった“社会的な恥”はどうでもいい!
自分の内側に対しての
“実存的恥”が大事なわけです!

聞き手/谷川貞治 合いの手/山口日昇

『週刊プロレス』を公称40万部という化け物週刊誌へと導き、当時のほぼ全団体を集めたプロレスオールスター戦を東京ドームで開催。まさにわが世の春を謳っていたターザン山本。あれから約20年。ありとあらゆる痴態と醜態を見せ続けたターザンの考える「恥」の概念とは何か。

人を許すんじゃない。人を許すという
自体が傲慢だから。「自分と和解する」。
そこに生き方の最高レベルのものがある

ターザン おい谷川! 俺は来年、70歳になるよ。70にな
ったら人生おしまいだよ!

谷川 いや、いや、そんなことはないと思いますけど。

ターザン (いきなり) 武道というのはね、限りなく、生
き方を問われる世界なわけですよ!

谷川 生き方?

ターザン キャリアを築いて獲得する地位や名誉といった
社会的なものとは関係のない、そのひと個人の人生の美し
さが問われる。それが武道ですよ!

谷川 それが山本さんにとっての武道の定義。

ターザン 社長になるとか、大臣になるとか、ノーベル賞
を取るとか、そういうこととはいっさい関係ないんですよ。
むしろ、そういうものから解放された自由なところに生き
方があって、その生き方が美しいかどうか武道なわけ
ですよ!

谷川 美しいかどうかすべてであると。

ターザン あらゆるキャリアとは関係のないところにある
美しさ。男ってそういうものを求めるじゃない?

谷川 わかります、わかります。

ターザン だから名を残そうなんてのも武道とは関係ない
んですよ。名を残そうということ自体が邪念だから。それ
は武道じゃなくて、邪道なんですよ。

山口 武道じゃなくて邪道! いいですね、その調子で飛
ばしてください。「始めっ」!

谷川 その美しさって、どういうものなんですか?

ターザン それは人によって違うよ。それぞれの価値観が
あるわけだから。

谷川 じゃあ山本さんにとっての美しさとは?

ターザン 自分と和解することですよ。

谷川 和解?

ターザン 自分と和解するんですよ。自分という欲望、自
分がやってきた人生、自分の行動や言動。そのすべての自
分と和解するわけですよ。

谷川 わ、和解かあ……。じゃあ今までは喧嘩してたん
ですか?

ターザン いや、自分の中に個人的な欲望とか、利己主義
とかがあるじゃない。そういう自分と和解するわけ。否定
するんじゃないんですよ、和解。

谷川 自分の中で認めるということですか?

ターザン 和解して、解放させるというか。結婚したとか、
子供ができたとか、離婚したとか、自分が裏切ったとか、
いろいろあるじゃない? そういったすべてのことに対し